

長崎県 佐世保市

佐世保市地域包括支援センター

総面積	426.06 km ²
人口	25万 3,910 人 男 11万 9,622 人 女 13万 4,288 人
65歳以上	7万 4,929 人
高齢化率	29.5 %

(2016年10月1現在)

執筆：園田康訓（佐世保市山澄地域包括支援センター 主任ケアマネジャー）

委託包括の横のつながりが強み 地域ケア会議、総合事業推進の力に

佐世保市は、長崎県北部地方にある中心都市です。県内では長崎市に次いで2番目、九州では9番目に多い人口約25万人を擁する、県庁所在地ではない「非県都」としては比較的規模の大きな都市であり、中核市および保健所政令市の指定を受けています。観光ではハウステンボスや九十九島などがあるほか、米軍基地もあり国際色豊かな町です。

佐世保市の地域包括支援センターは、2012年度までは直営3カ所（東部、中央、北部）、委託1カ所（江迎鹿町）の計4カ所体制でした。

2013年度に見直され、現在は委託9カ所（早岐・日宇・山澄・中部・清水・大野・相浦・吉井・宇久）となっています。

佐世保市の地域包括の特徴は保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーの3職種が介護予防のプラン作成は行わずに、地域支援事業である「総合相談」「包括的・継続ケアマネジメント」「介護予防」「権利擁護」に注力している点です。

また、地域の高齢者数6,000人につき3職種1名ずつの職員配置を基本とし、その後2,000人増えるごとに

図1 佐世保市の地域ケア会議

会議名	頻度	参加者
合同地域包括ケア会議（市全体が対象）	1回/年	民生委員・ケアマネジャー・事業所・医療機関・薬剤師・老人会・社会福祉協議会・その他関係機関・行政
地域包括ケア会議（担当圏域が対象）	2~4回/年	民生委員・ケアマネジャー・事業所・医療機関・薬剤師・老人会・社会福祉協議会・その他関係機関・行政
地域ケア会議（個別ケースが対象）	2~4回/年	検討ケースの関係者およびオブザーバー
関係者会議（困難ケースの外部との連携）	随時	検討ケースの関係者
ケース会議	随時	地域包括内三職種および追加職員

1名を追加する体制を取っています。私が勤務する山澄地域包括支援センターでは、3職種の3名に追加職員3名（すべて社会福祉士）の計6名で地域支援事業を担当し、加えて介護予防担当として計6名を配置、合計12名の職場となっています。

月間相談件数は山澄だけでも100件を超え、昨年度は権利擁護では市長申し立ても含め8件の成年後見制度申し立ての支援を行いました。

▼ …………… 主任ケアマネが中心となり「地域ケア会議セット」を作成

佐世保市では、2013年の委託開始当初から、日常生活圏域レベルでの「地域包括ケア会議」を実施していました。が、個別レベルの「地域ケア会議」は、いずれの地域包括でも取り組めていない状況でした。

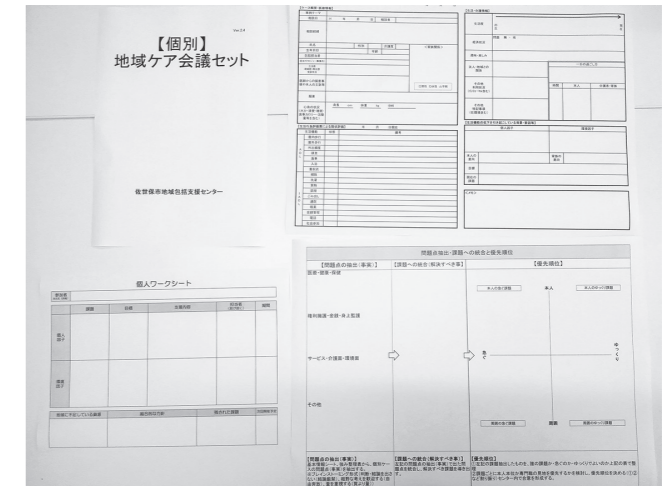
2015年になると厚生労働省や県の研修で地域ケア会議の手法につ

いて学ぶ場が用意され、また県のモデル事業で指導を受ける機会もでき、少しずつ地域ケア会議の開催を試みる地域包括も出てきました。ただ、「準備する書類が多い」「選定するケースが不明確」「具体的な進行方法が分からない」などさまざまな要因から、定期的な開催につなげることができませんでした。

この課題を解決するために、行政と地域包括の主任ケアマネジャーが中心となり、「様式の見直し」「進行手順の明確化」「Q & A集の作成」など、地域ケア会議の体系化および

マニュアル作りを実施。成果物として、2015年末に「佐世保市版地域ケア会議セット」を作成しました。

この地域ケア会議セットは、もともとモデル事業に参加した清水地域包括支援センターが作成していた地域ケア会議セットをもとに、一からまとめ直したものです。複数に分かれていたシートを統合し、基本情報および手持ち資料をA3用紙1枚に集約。検討課題の選定についても、問題点をブレンストーミング法で抽出し、その問題点を集約させ課題に統合していく方法へ変更しました。ほかにも、書



佐世保市オリジナルの「地域ケア会議セット」